



# 福島空港 公園づくり

第1号

# かわらばん

Fukushima Airport

平成26年12月18日発行／福島空港事務所

## 第1回 福島空港公園運営検討委員会 開催

### ●福島空港公園の概要と運営委員会

福島空港公園は、平成5年に福島空港開港と同時に開園した広域公園です。

エアフロントエリア、緑のスポーツエリア、地球科学エリア、フラワーアーケードエリアの4つのエリアで構成され、全体面積は329haで、これは東京ドーム約70個分の広さになります。

うち供用面積は、53haで全体面積の約6分の1程度になります。また、残り6分の5（276ha）については、広大な手つかずの自然を有しています。

県では、このフィールドを地域活動やNPO活動など多様なニーズの活動の場として提供できるのではないかと考えております。

今回はその運営に当たっての仕組みづくりや魅力ある公園としてどう活用していくかを検討するため、11月10日に「**第1回福島空港公園運営検討委員会**」を開催しました。

### ●第1回福島空港公園運営検討委員会

現地視察の後、第1回のテーマ「福島空港公園の目指すべき方向性」について、各委員からご意見を頂きました。

#### 福島空港公園運営検討委員会委員

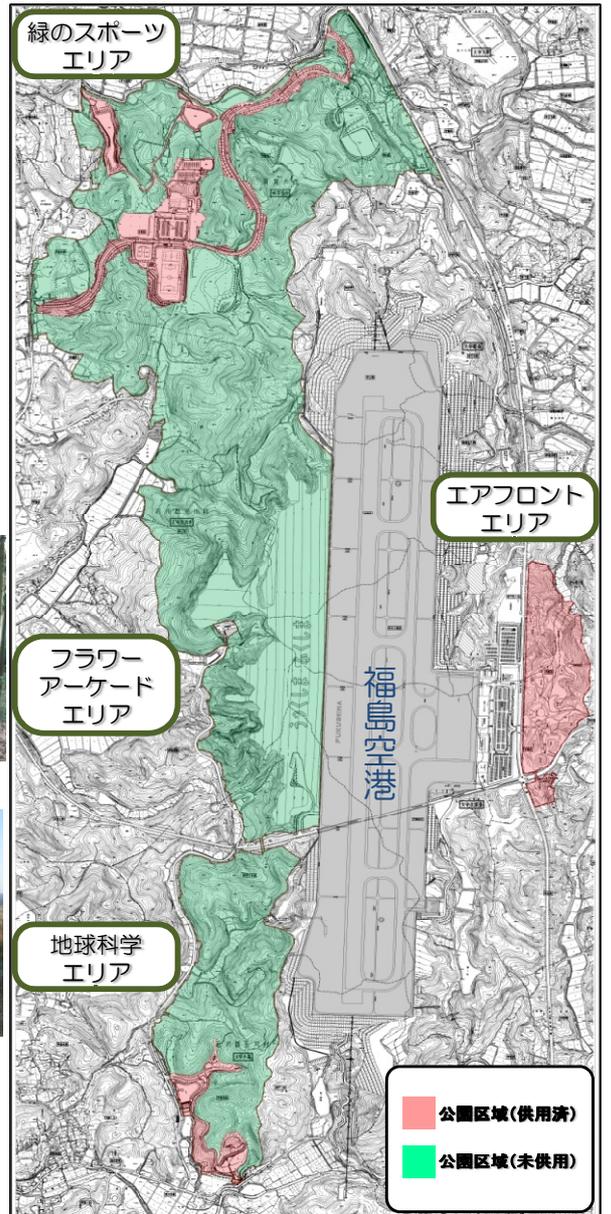
役職	氏名	所属
1 委員長	金子 忠一	東京農業大学地球環境科学部 造園科学科 教授
2 副委員長	高木 亨	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任准教授
3 委員	大八木 健治	NPO法人 はばけ21 夢飛行 理事長
4 委員	阿部 紀久雄	NPO法人 福島県もりの案内人の会 県中支部長
5 委員	高橋 園一	福島県ノルディックウォーキング協会 会長
6 委員	鈴木 和隆	NPO法人 うつくしまNPOネットワーク
7 委員	橋本 直子	須賀川商工会議所 青年部 理事
8 委員	佐藤 成行	須賀川市大東商工会 会長
9 委員	渡辺 宏高	公益財団法人 福島県都市公園緑化協会 理事長
10 委員	木村 勝美	福島県まちづくり推進課 課長
11 委員	寺木 正宏	福島県福島空港事務所 所長



現地視察の様子



未供用エリアから望む福島空港



## 委員からの意見

### 金子委員長

自然だけを活かした公園では物足りない。どんな魅力を足していくかを皆さんで議論できるといい。具体的にどんな公園像を目指すかを議論したい。

### 阿部委員

震災以前より、森の案内人の活動は少ない状況。震災で地域での子どもの活動が停滞する中で、木工クラフトなどを子ども達に教えている。

### 高木副委員長

空港公園は日常ではなく、非日常の空間ではないかと感じた。人のつながり、まちのつながりを考えていくのがいいのではないかと。

### 高橋委員

ノルディックは全国的にブームだ。白神（秋田）などでもやっているが、大々的に来てほしいという会場が限られている。空港公園でコース作りができれば良い。

### 大八木委員

福島空港は、公園も含めて、交通手段であって、目的ではないことが多い。目的地になりたい。何か大きな大会ができるようにしたい。

### 渡辺委員

多様な利活用ができるような柔軟な整備が必要。それによって、いろんな団体や人のつながりができる。

### 寺木委員

最大限みなさんが使いやすいような仕組みを行政としては考えていきたい。

委員の皆様より貴重なご意見を頂きました。

## ■福島空港公園の目指すべき方向性(素案)

### ■基本理念(素案)

公園利用者をはじめ、より多くの住民や活動団体等が、様々な形で自由に公園運営に参画することのできる柔軟な**パークマネジメントの実現**

#### ●理念を支えるキーワード

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| ・ 協働と参画   | 行政と住民など多様な人による協働と参画を目指す |
| ・ 魅力の発掘   | 公園の魅力を最大限に発揮する          |
| ・ 自由な発想   | 都市公園法の下で、自由な発想を発揮する     |
| ・ 自主性     | 住民や活動団体等の自主性を尊重する       |
| ・ 合意形成    | 合意形成の場を設け、皆でルールを確立する    |
| ・ 情報共有    | 全ての関係者が理念や情報を共有する       |
| ・ 行政の支援   | 行政は、住民や活動団体の活動を支援する     |
| ・ 市民文化の創造 | 公園づくりを通して、新たな市民文化を創造する  |



### ■福島空港公園の運営方針(素案)

施設をつくり使ってもらう公園ではなく、ともにはぐくむ風土が息づく公園

広大で豊かな自然環境を有する広域公園として、福島空港に隣接する立地特性や里山の自然あふれる環境特性を活かしながら、『県民（地域住民や団体）とともに作り、ともに育む』活動を通じて、風土（自然・歴史・文化）が息づく、魅力ある公園づくりを行い、その継続・発展につとめる。

### ■福島空港公園の運営目標(素案)

#### 【地域の風土を未来に継承するための、ひと・まちづくりの拠点となる公園】

- 福島空港公園を、ともに作り、ともに育む『組織・ひと（パークアテンダント）』を増やす
- 福島空港公園づくりを通じて、豊かな生活や地域の魅力を高める（ブランドの確立）
- 福島空港公園を拠点として、ひとづくり・まちづくりを行い、地域の風土（自然・歴史・文化）を継承していく

※パークアテンダントとは、福島空港公園をともに育む人々で、この公園に集う仲間を意図した仮名称

## ●第1回福島空港公園ワークショップ開催のお知らせ

1月14日（水）に第1回福島空港公園ワークショップを開催します。福島空港公園で、活動してみたい団体やNPO等の皆様の参加をお待ちしています。（福島空港事務所ホームページで案内しております。）